尊厳死 かごしま
第 23 号

発行　日本尊厳死協会　かごしま
事務局　〒892-0822　鹿児島市泉町1－15
「財団法人慈愛会　事務局」内
TEL 099-223-1131　FAX 099-223-2444
URL　http://www5f.biglobe.ne.jp/~osame/sonngen/index・s.html

—第21回公開懇話会開催報告—

「医療改革における在宅医療の意味」

日本尊厳死協会かごしま　理事　上　原　充　世

日本尊厳死協会かごしまの第21回公開懇話会が、平成22年11月27日（土）にかごしま市民福祉プラザで開催されました。今回は在宅医療で全国的にご活躍のナカノ在宅医療クリニック理事長兼院長の中野一司先生に「医療改革における在宅医療—キュアからケアへ—」というテーマでお話頂きました。わが国が高度成長をとげる中医療の場においても技術の進歩に伴い、多くの病気が治療できるようになってきました。超高齢社会の到来を迎え、認知症で食事が摂れなければ胃瘻を造設する医療、所謂、医療がキュアに偏在した結果、①患者本人が望まない医療が行われている可能性がある。②介護する家族や介護者の不安が大きくなる。③トータルの医療、介護費用のコスト・パフォーマンスが悪くなるなど3つのデメリットを想定できると指摘され、医療偏在（キュア）からケアへのパラダイムチェンジの必要性を強調されました。

超高齢社会を迎え、増えているのは治療を必要としている病気ではなく、加齢に伴う障害であると言う捉え方をする。高齢者の認知症の多くは、加齢に伴う脳の障害であり、認知症が進行して嚥下障害、誤嚥性肺炎は、当然予測される自然のなりゆきである。在宅で“看取り”ができたということは、何もせず“見殺し”にしたと言うことではなく、障害をもって最期まで在宅（地域）で生きる事を医療的に支援できたことである。在宅での“看取り”の問題として、家族の心的負担をあげられた。身体的介護負担と言うよりも、「何かあったらどうしよう」「看

護師の代わりができない」など心理的介護負担が大きい。そこで心配せずに医療者を呼び、静かに看取る。このことが患者の望む医療のあり方ではないだろうか？　今まで社会・家族に貢献されてきた高齢者には、せめて亡くなるまでの余生を、楽しく快適に生きていただく事を社会全体で支えていこうとする考え方がケア的思考である。国の政策もキュアからケアへチェンジすることで、高齢者にやさしい社会の実現に繋がるのではないかと話された。このキュアとケアの考え方については、京都ノートルダム女子大学の村田久行教授の理論に基づいたものである。村田理論は極めてシンプルで、「苦しみの構造」は①その人の客観的な状況、②主観的な想い、願い、価値観のズレによって生じ、そのズレが大きいほど苦しみが大きくなるというもので、①の状況を良くして②の状況に近づけるのが「キュア」です。①の状況を変えることが困難な場合は、本人の思いを「まだ生きている。生きている人生を精いっぱい楽しもう」という

思い、価値観を転換する、所謂苦しみを緩和するアプローチがケアです。このように在宅で看取りのできる医療は質の高い医療でもあると言われました。

超高齢社会を迎えた現在において、医療者に限らずすべての人々が現代医療のあり方を真剣に考え、私たち自身がしっかりとした死生観・人生観をもち、これからの人生をいかに生きていくかを問い直していく必要があるのではないでしょうか。

今回参加者は約60名でした。

アンケートより　（40名）

会　員：27名　非会員：8名　無回答：5名
男　性：14名　女　性：25名　無回答：1名
年　齢：75歳以上：24名　65～74歳：8名
55～64歳：4名　40～54歳：3名
無回答：1名

講演は大変良かった：39名　無回答：1名

内容としては①実践に基づいた素晴らしい講演でした。②医療制度の変化に期待したい。③キュアとケアへの違いがよく解り安心して在宅医療が受けられそうである。などなど、感想を述べられていました。

―第22回公開懇話会報告―

人生の終い方

～終末期医療の現場から～

日本尊厳死協会かごしま　理事　小　鷹　芙美子

平成23年2月27日（日）鹿児島市民福祉プラザにて約30名の参加をいただき開催されました。今回は日本尊厳死協会かごしまの理事であり、医療ソーシャルワーカーであり長年緩和ケアに関わり、がん相談室にてがん患者さん・ご家族の相談援助をされている吉国久子先生に講演していただきました。現場は循環器専門の病院に併設されている緩和ケア病棟であり救急車がひっきりなしに到着する状況にあります。

がん相談室の中で治療に関する疑問、治療する環境、告知はしていないが緩和ケア病棟に入院できるか、痛みに対して、また入院費等経済的な心配など多くの相談があります。

そこでお二人の患者さんの紹介がありました。如何に残された時間を大切にし、病状について、そして苦痛の緩和をはかり、残された家族に対して安心して旅立てるか患者さんの希望を親身に受けいれ、助言・指導され、そして患者さんは今幸せな気持です、皆に感謝の言葉を伝えられて自分らしく永眠された方々でした。

緩和ケアの入院時の主訴は、痛みが最も多く、食欲不振、全身倦怠感、腹部不快、呼吸困難、嘔気・嘔吐・咳・痰・不眠等であった。

必ずしも終末期の患者さんが苦痛に満ちているとは限らない、心穏やかに時を過ごされている方もあること、しかしこれまでの自分の生き方を振り返り、死が怖い地獄に落ちるのではと心穏やかでない方もあり、宗教関係の方との対話も大切なこともあるなど。患者さんから多く

を学んでいます。

入院患者さんの病状認識は

・ほとんど説明を受けていない
・病名は知っているが、現状や今後については知らない
・ほとんど知っているが、これ以上の説明は必要としていない
・すべて説明を受け、今後辿るであろう経過も説明を受けている。

等であり、病状説明を受けていない場合患者さんは不安感をもち、また徐々に病状が進行しても患者と家族が真正面から向き合えない、お互いにお別れの言葉が言えない状況となる。

《アドバンスディレクティブ（事前指示）》

意思決定能力が無くなった時の治療の選択を口頭か書面で示しておくもの

(1)代理決定人を決定すること
(2)一般的な患者の価値観を知ること
(3)個々の治療の選択が含まれる

＊緩和ケア病棟では

・幸い病状をできるだけ取り除く
・その人らしさを支える
・患者さんの希望を支援する
・ご家族へのケア（遺族ケア）
・基本的に蘇生はしない

最後に高齢者が健康に暮らす秘訣を「曽野綾子著　老いの才覚より」で紹介されました。

質疑応答では上手な生き方・死に方を考える機会になった、終末期医療に対する自分の思いを家族に伝える方法として、書面で明言しておく、また尊厳死協会への入会など、家族内での話し合いが大切であること、尊厳死の宣言書の内容検討についてもなされている模様であった。

参加者のアンケートから「大変よかった」、「もっと多くの人に参加して欲しかった」、「人は皆死に向かって生きています、若い時、健康な時には意識しない終末期、穏やかに迎えられるよう努力したい」。

人生の終わりを如何に心穏やかに迎えられるか、その関り方は難しい現実であるが、多くの体験を大切に学ばれた成果を実施されている講演に出会い感激しました、有難うございました。

「終末期の迎え方」納先生のお話を聞いて

鹿児島医療生活協同組合　谷山北部ブロック
理事　田中　かすみ

「終末期の迎え方」ということで重いテーマの講演だなと思っていました。死を話題にすることはしにくい風潮があります。それは必ず迎える死を考えたくないという思いからだと思います。しかし先生のお話を聞いた後、なぜか清々しく、気持ちが楽になっている自分に驚きました。先生が最初に「尊厳死は死の問題であるばかりでなく、残された期間をどう生きるか、どうケアしていくかの問題。」と話されたことで、スーッと気持ちが軽くなったのです。

今まで尊厳死のことを苦痛を伴わない死、つまり安楽死だと思っていました。今日「リビングウィル」を読み、明確な要旨を知ると、似ているようでまったく違うことだと気付きました。

突然その日を迎えたとしても、周りの人のためにも自分の意思を残しておく。また自分自身は悔いの無いように一日一日を充実させて過ごすことが大切なのですね。

先生の絵の話も感動でした。入院を経験されてから描かれた絵は力強さや命の底からわきあがるエネルギーを感じます。何事にも全力を注がれる方なのでしょうが、絵の具の原石までのこだわりは凄いとしか言えません。公私共にお忙しい中、一日をその何倍にも過ごされている姿、素敵ですね。

必ず訪れるその日のため、絶えず準備し、家族と話すことが大切だと感じました。早速行動したいと思います。有難うございました。

平成23年度総会・公開講演会のご案内

と　き：　平成23年4月24日（日）　午後２時（開場１時30分）～４時
ところ：　かごしま市民福祉プラザ５階大会議室　鹿児島市山下町15番1号
（TEL　099-221-6070）

演　題：　「自分らしく尊厳をもって生きる～温かく看まもられて～」
講　師：　大園　清信　先生（医師・鹿児島県議会議員）　●入場無料●

紹　介：

昭和63年３月　鹿児島大学医学部卒業
平成７年３月　鹿児島大学大学院医学研究科修了
医学博士取得
平成７年４月　鹿児島県立大島病院麻酔科救急部長
平成10年６月　鹿児島県立大島病院退職
平成13年５月　鹿児島県議会議員補欠選挙当選
現在３期目
平成22年　議会運営委員会　委員長
現在：医学博士・麻酔専門医・スポーツドクター
日医認定産業医鹿児島市医師会会員
鹿児島県立南高校医
県アマチュアボクシング連盟医事委員
鹿児島城西高校ボクシング部顧問医
鹿児島市陸上競技会会長

役員会の動き

第3回　平成23年2月27日(日)　午後4:00

1．**平成22年度決算および平成23年度予算案について**
事務局原案のとおり、決算・予算が承認された。

2．**平成22年度総会・公開講演会について**
４月24日開催に向けて計画通りに推移している。

3．**公開懇話会について**
年３回の開催は活動費の状況によるが、なるだけ開催していく方針とする。

4．**出前講座について**
申し込みには全て応えていくこととした。

編集後記

弥生の候、皆様いかがお過ごしでしょうか？

さて、本号では、私共にとって大変有益で感銘深い第21回と第22回の公開懇話会の講演内容が収載されています。是非、参考にして頂ければと思います。

次回の平成23年度総会・公開講演会での大園清信先生の講演「自分らしく尊厳をもって生きる～温かく看まもられて～」には、是非、お誘いあわせの上、ご参加してください。

（T・M）